



文化財保護センターだより

第14号

平成7年11月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒500 岐阜県岐阜市司町1 (岐阜総合庁舎内)

TEL 058-264-1111(代)
FAX 058-264-0343

●もくじ

カラー	タイムスリップ探検隊から…1	調査	北小木大谷洞古窯跡調査…5
提言	貴重な体験……………2	報告	第4回タイムスリップ探検隊…6
調査	船山北古墳群発掘調査状況…3	トピックス	今宿遺跡の鳥形木製品…7
調査	カクシクレ遺跡発掘調査状況…4	記録	センター日誌……………8



タイムスリップ探検隊から

恒例のタイムスリップ探検隊は去る8月9日、好天に恵まれた飛騨の地で開催され、多数の参加者が集う中、結団式に続き午前中は発掘体験に、そして午後は遺物整理（拓本とり）に熱心に取り組みました。縄文土器の注口部分を発掘できた [] (小坂小5年) は、「今日初めて発掘をしたけど、昔の人が作ったものを手にしてみると、自分が昔の人といるような感じがしました」と興奮気味に話してくれました。写真はカクシクレ遺跡A班の参加者です。この体験がまたひとつ大切な思い出になれば……。

貴重な体験



岐阜県町村教育長会
会長
平野 敬

文化財保護センターだより第11号（平成6年11月1日発行）の中で「第3回タイムスリップ探検隊」の記事をとて印象的に読みました。これは、親子で遺跡の発掘を体験するセンターの主催事業です。郷土の文化に関心を持ち、遺跡の発掘や拓本とりに興味を示す人々もいっぱいです。その方々へチャンスを与えていただいたこと、更に親子での参加がすてきです。体験後、5年生女子は、「…土器を見つけた時は本当に楽しかった…」と語り、その母親は「発掘した遺物は本当に小さなものばかりでしたが、一つ一つ手にした時、本当に感激します。…」と述べています。

今年は、先日（平成7年8月9日）、定員をはるかに越す希望親子が飛騨丹生川村西田遺跡・カクシクレ遺跡に集い充実した体験に心地よい汗を流したと聞いています。猛暑の最中にもかかわらず親子共々目を輝かせ、その熱心な取り組みに担当者が逆に感動したとの事です。本当にうれしい事です。

こういう報告を聞くと、私は30年ほど前、中学校社会科教師を勤めていた頃を思い出します。歴史的分野での学習で、郷土クラブをも担当する社会科教師が、ヤジリや土器の破片をとて大事そうに示しつつ「校下の……で見つけたものだよ」と語ったのです。それがきっかけで、多くの中学2年生がどっとその場に集まり、「調査」が始まったのです。破片を組み合わせると結構な土器になるものもありました。授業の深まりは勿論のことです。「盗掘が行なわれないように…」教師たち

の指導も忙しくなりました。

こういう学習の効果は夏休みの一研究を経て大きく育っていきました。グループでの石器や土器づくり、地域の方々の支援を受けての竪穴住居づくりへと進みました。その過程では近隣図書館での研究もありました。タイムスリップ探検隊参加の子ども達の姿も同様であります。

今の子どもは「受け身である」「体験を嫌う」とか「生きてはたらく力に欠ける」等々、一方的に評されることがあります。実はそうではなくてそういうチャンスに恵まれていないのです。遺跡の発掘や拓本づくりが歴史への興味関心を高めると同様に、各種スポーツにも、広く芸術にも、そこへのめり込むチャンスが必要であります。児童生徒の個性は豊かであり、可能性をいっぱいもっています。それを引き出したいのです。

今年4月から学校週5日制月2回がスタートしました。半年経過した現在、「好きな事ができるゆとりができた」という声も聞かれます。個に応じた体験を通して、知識とともに知恵を育て、活力ある充実した生活を少しでも多くしたいものです。そういう意味で、タイムスリップ探検隊の試みは、実に貴重なものであり、時宜をえたものであります。

岐阜県文化財の保護という重責のかたわら、教育の現代的課題に見事に応えていただいている取り組みに感謝している一人であります。



発掘調査状況

当センターでは現在、地元関係機関や多数の方々のご協力をいただき、県下6地区11遺跡で発掘調査を進めています。猛暑に見舞われた今夏、流れる汗を拭きながら懸命に続けられた調査もしだいに終わりに向かいつつあります。一部で現地説明会も開催しております。

◆ 船山北古墳群発掘調査 (各務原市)

各務原市須衛町で平成5年6月より発掘調査を始めた船山北古墳群は、3年目を迎えた本年度で現地調査を完了する予定の遺跡です。

3つの支群に分散する古墳時代後期の古墳15基

この古墳群は、比高差約20mほどの東南に延びる低い丘陵の3つの尾根上に支群を形成している群集墳です。このうち、中央の支群にはもっとも多い計7基の古墳が認められます。15基の古墳の多くは、主体部である横穴式石室が開口していたり、石室の天井石が外され陥没したものが多くありました。

異なる時期の土器が出土した2号墳

2号墳は調査区のもっとも東に位置する古墳でその規模は直径13mと推定される円墳です。この古墳は、調査に入った時点で一部に盗掘された様子も見られ、遺物はすでに持ち去られていると考えていました。しかし、調査を進めると、石室内より須恵器36点と土師器1点が出土し、いずれの土器も最初に据え置かれたと考えられる位置で確認することができました。



2号墳石室内遺物

2号墳の測量風景



土器の出土した位置は、玄室内と羨道中央部分それに玄室と羨道の境界部分の3カ所に大きく分けることができます。玄室内より出土した土器は7世紀のもので、羨道部分および羨道と玄室の境界部分の土器は8世紀のもので、なお、出土遺物は土器のみで、人骨あるいは遺体を納めた棺などは出土していません。

この2号墳に残されていた異なる時期の土器はこの古墳を造営して埋葬がおこなわれた後、複数期にわたって何らかの目的で石室内に納められたと考えられます。どのような儀礼が何を目的として行われたのか、土器の出土状況等を再度検討しながら調査を進めたいと考えています。

ほぼ同時期に造られた古墳群

これまでに10基の古墳についての調査は完了しています。この10基の古墳について、その規模などを比較してみると、いずれの古墳も、墳丘や石室などがほぼ似かよった規格で造られていることがわかります。また、残されていた遺物もほぼ同時期のもので、特定の古墳の遺物が秀でているということもありません。また、それぞれの古墳

が造営された時代も7世紀中頃前後と考えられます。

これらのことから、この古墳群はそれほどの期間をおかずに、同一の規格で造られていったと考えられます。また、すべての古墳の調査が終了したわけではないので確定はできませんが、残る古墳の調査でこのことはさらに明らかになると考えています。

古墳時代～近世にいたる複合遺跡

調査は、現在5基の古墳について行なっていますが、今年度の調査の中で、平安時代～鎌倉時代にかけて操業していた古窯4基とそれに伴う作業場、また中世～近世の土壇墓数基が確認されています。船山北古墳群は、さまざまな時代の遺構を残す複合遺跡であることが判明しています。今後これらさまざまな時代の遺構について、その関連性を検討していきたいと考えています。

◆ カクシクレ遺跡発掘調査 (大野郡丹生川村)

カクシクレ遺跡は丹生川村折敷地の五味原地区にあります。荒城川左岸に位置し、従来より縄文時代晩期の遺跡として知られていました。発掘調査はA地点(約2,400㎡)、B地点(約1,000㎡)、C地点(約3,000㎡)の3か所で行なっています。

水さらし場遺構を検出したA地点の調査

A地点は、後世の農地造成等により旧地形がかなり改変されており、遺跡の全体を確認することはできていません。現在までに検出した遺構は、竪穴住居跡1軒とピット群および水さらし場遺構1基です。竪穴住居跡は、縄文時代中期のもので、約4.3m×3.7mの楕円形をしており、確認された深さは約1.1mあります。発掘調査で確認される竪穴住居跡の多くは遺構検出面が低く、このように深い住居跡が確認されることは珍しいことです。

水さらし場遺構は、A地点の中央部分を行っていた溝の途中で検出されました。この遺構は、板状の木材が約1.0×0.9mの方形に組み込まれたもので、深さは約30cmです。中は泥が詰まっており、多量のクルミやトチなどが出土しました。水の流れる場所に位置することから、クルミ・トチ等の堅果

類の水さらし場として利用されたと考えられます。

この遺構の利用された時期は、土器等の出土状況から縄文時代晩期であろうと推定しています。木組みが比較的良好な状態で検出された水さらし場遺構の報告は全国的にも少なく、縄文時代の集落の構造や食生活を知る上で貴重な資料になると考えています。

A地点出土の遺物は、縄文時代中期から晩期の土器や石器など約1万点ですが、注目されるものに、石製装身具、石剣、独鈷石、土偶等があります。

B地点の調査

B地点は、小さな谷川が荒城川に合流する地点に位置します。現在調査中ですが、地滑りらしき痕も見られ、遺構検出は困難です。砂層より縄文



水さらし場遺構

時代後期の土器片や炭化したクルミ等が出土しています。また、土偶の頭部が1点出土しています。

C地点の調査

C地点は、北向きの扇状地に立地します。後世

の開墾により削平された部分が目立ちます。縄文時代後期から晩期の遺物が点在しており、粗製の土器や打製石斧が多いことから、食料採集等の場として利用されていたことが考えられます。

◆ 北小木大谷洞古窯跡発掘調査 (多治見市)

北小木大谷洞古窯跡は、多治見市北小木町にあります。愛知県境に近い山中に位置し、計100基程と推定される北小木古窯跡群は、13世紀、この地方の特産である「山茶碗(白瓷系陶器)」の生産が隆盛期を迎えたことを物語る遺跡の一つとして知られています。今回の調査は、県道多治見犬山線改良工事に伴うもので、うち古窯跡2基を検出しました。



29号古窯の調査

2基の窯は、南向き斜面に約6mの間隔を置いて並列していました。西側に位置する29号窯は、全長8.2m、最大幅2.1mあります。山茶碗窯としては小型であると言ってよいでしょう。

一方、その東隣に位置する30号窯は、全長10.8m、最大幅2.4mで、29号窯に比べて大型です。どちらも天井部分は残っていませんが、床や壁の残存状況は比較的良好でした。燃焼室と焼成室の境からは、熱効率を高めるために設けられる分炎柱が検出されています。

29号窯と30号窯とでは、窯内から出土した碗類

や皿類の型式にはっきりした相違が見られるので両者は同時に操業したものではなく、30号窯→29号窯の順で操業したものと考えられます。それぞれの操業時期は、古い方の30号窯が13世紀、29号窯は14世紀と推定されます。一般的に時代が新しくなるにつれて窯が小型化していく傾向がありますが、今回の調査でも同様でした。

窯体の下方には、焼成後に投棄された失敗品や炭、焼土などが厚く堆積していました。調査の結果、焼成された製品の大半は碗類と皿類であることが明らかとなっています。また、傾斜のある床面に重ね積みした碗を倒れないように置くために用いる焼台が多数出土しました。出土遺物は全部で整理用コンテナ150箱分を超える量に達しています。



灰原部分の検出

タイムスリップ探検隊実施報告

「昔の人がそこに住んでいたんだなあ！ 昔の暮らしが浮かんでくる」「何千年も前の人の手で作られた土器を今、触って見ているんだなあ！」「汗がだんだん出てきた。休み時間に飲んだ山水がおいしかった！」

今年度、丹生川村折敷地五味原で行なわれたタイムスリップ探検隊に参加した子供たちがこんな感想を残してくれました。

親子で発掘を体験するこの事業は、今年で4年目を迎えました。飛騨地区での実施は初めてです。

参加者は当初の予想をはるかに超え、183名の親子での参加がありました。発掘作業では、カクシクレ遺跡などに分かれて土器や石器を掘りました。午後は土器洗いや拓本とりを地元荒城小学校で行ないました。

夏休みの一日、土器や石器を掘りながら縄文時代の暮らしに思いをはせた体験は、参加者の心に強く焼き付いたことでしょう。



保護者の感想より

◆ 娘共々初めての体験ができ、嬉しく思います。人数が多くてびっくりしましたが、準備も十分にしてくださり、教えてくださる方々が皆親切に接して下さったことも嬉しいことでした。学校ではなかなかこういった体験ができませんので、一生の思い出になります。

一つの展示品が出来上がるまでの多くの人々の苦勞に触れさせてもらいました。次回にガラス越しに見る土器への思いが違ったものになると思います。

[小坂町 ■■■■■]

参加者児童の感想より

◆ 僕たちは、図工の時間に昔の人達が作って使っていた土器に近づける土器を作りました。自分では土器らしく作れたと思って、今日実際に掘ってみると、とても複雑で、昔の道具でよくこんな模様が作れたとびっくりしました。

土器が見つかるのととてもうれしかったです。昔の人が作ったものが今あることが不思議でした。 [丹生川東小 ■■■■■]

◆ 発掘調査地で仕事をしているおじさんやおばさんがやさしく教えてくださいました。小さくて教えてもらった土器のほうが多かったけど、最後には大きい土器が見つかってうれしかったです。

拓本はふたつ作れました。きれいな形を作りました。楽しくやらせてもらってありがとうございました。

[丹生川小 ■■■■■]

◆ 炎天下の長時間、子どもと付き合うのはたいへんと思って参加したものの、いざ掘ってみると親のほうが面白がるほど、短時間に充実した体験を過ごさせていただきました。土器掘りでは、つつい躍起になって平面削りのつもりが穴掘りになっていたりしていたのです。

土器掘り、土器洗い、そして拓本作りと本当によい勉強になりました。拓本は、はじめ簡単なものを持ってきましたが、だんだん立体感のあるものに挑戦し、気が付いたら4枚も作っており、息子も4枚作っていました。

さらに、湧き水の美味しかったこと。準備を万全にしてくださったこと。移動のバスの中での談笑も楽しかったこと。班の方とも仲良くなれたことが心に残りました。

[高山市 ■■■■■]

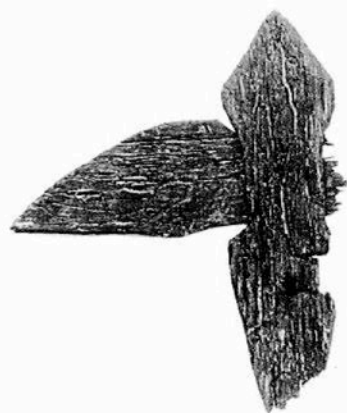
トピックス

大垣市今宿遺跡出土の 鳥形木製品

一般的に弥生時代から古墳時代の鳥形木製品は、弥生時代では主に穀物の霊を運ぶものとして農耕祭祀に用いられ、古墳時代になると死霊を運ぶものとして葬送に用いられるものも出てくると考えられています。また、ムラの境界に守神として立てられたものとする考え方もあります。鳥形木製品には、鳥の側面の姿や羽根を広げた姿を、立体的に作り出したものや、扁平な板を加工した板作りのものがあります。また、胴体の下に穴をあけて棒を差し込むようにしたものも多く、祭祀の時に棒の先端に付けたような使用方法を想像させるものがあります。出土例は近畿地方を中心とする西日本に多いのですが、報告されているものは数十例を超える程度です。

今宿遺跡では、発掘調査区の西側に居住域に連なる微高地があり、中央から東側の低地部には水田跡が検出されています。古墳時代前期の水田跡の調査では、ちょうどこの境に水路が作られており、鳥形木製品はこの水路の微高地側の土手の上から出土しています。

この鳥形木製品は、スギの板を加工して胴体と羽根を別々に作り、4本の小さな木釘で固定しています。胴体と羽根が一体となって出土した例は



鳥形木製品

全国的にも少なく貴重なものと言えますが、胴体の一部と羽根の約1/2が破損しているため、正確な大きさは不明です。残っている部分では、胴体が長さ29.1cm（推定復元32cm、幅8.2cm、厚さ1.2cm、羽根が長さ24.5cm（推定復元39cm）、幅8.5cm、厚さ0.5cmです。こうした板作りで、鳥が羽根を広げた姿のものは、弥生時代後期から古墳時代前期に多く見られるようです。

この鳥形木製品の大きな特徴は、羽根と胴体に黒色の文様が帯状に描かれていることです。こうした例は、弥生時代から古墳時代前期のものでは今のところ確認されていません。また、多くの鳥形木製品に見られる、胴体に棒を差し込んだよう

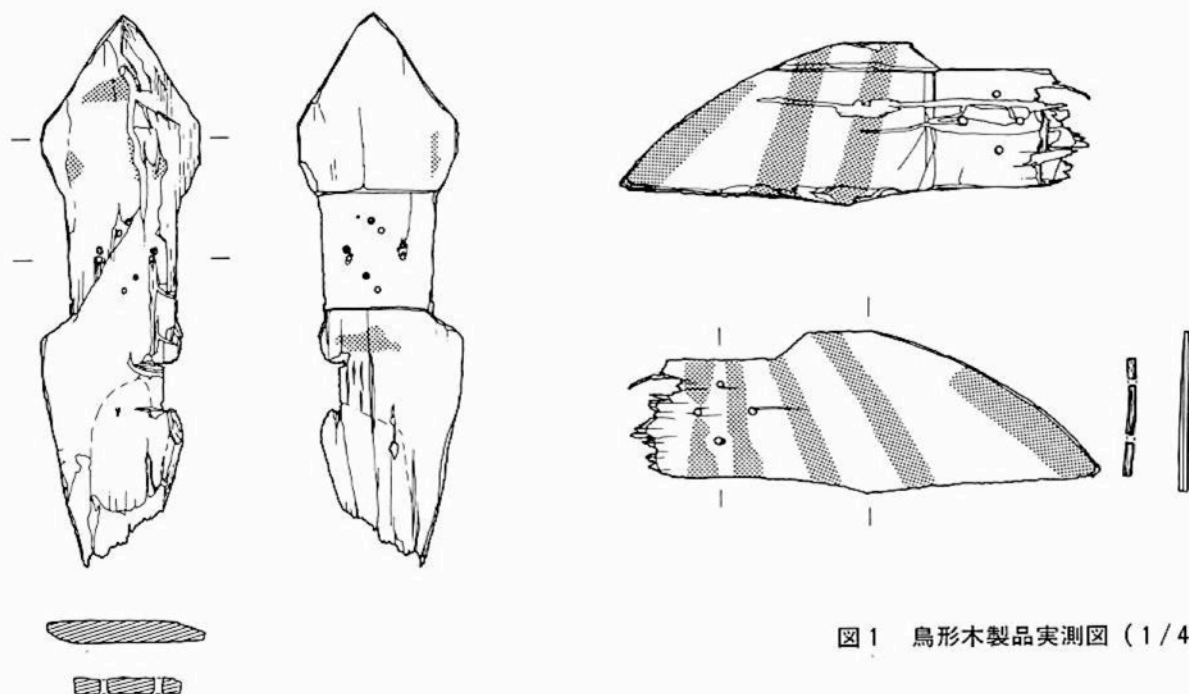


図1 鳥形木製品実測図(1/4)

な穴はなく、つり下げられたり、縛り付けたりして使われたのではないかとされます。

鳥は、穀物の霊を運び、悪霊を追い払う力を持つと考えられ、鳥形木製品はさまざまな祭りにおいて重要な役割を担っていたと思われます。今宿遺跡でも、稲の成長を願い、豊作に感謝するような農耕のお祭りに使用されたか、あるいは水田と居住域との境界に守神として使われていたものと思われます。

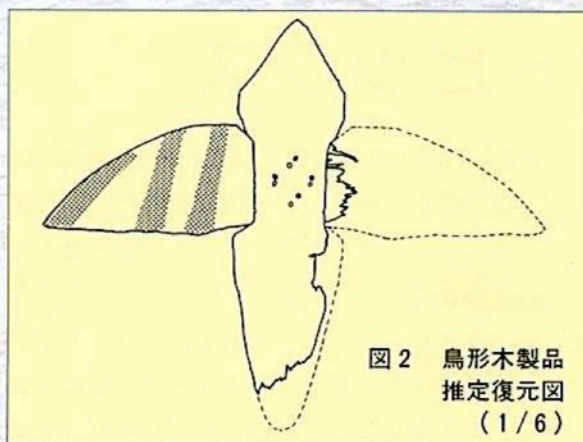


図2 鳥形木製品
推定復元図
(1/6)

センターだより

●日誌

- 6.22 奈良国立文化財研究所光谷氏、今宿遺跡・穂積整理所来所
- 7. 7 岐阜教育センター中学社会科講座16名、今宿遺跡研修
- 10 北小木大谷洞29・30号古窯跡調査開始
- 13 揖斐郡教育委員会11名、上原・寺屋敷遺跡視察
- 18 大垣市立小野小学校6年生116名、今宿遺跡体験発掘
- 24 余呉ダム関係水資源開発公団職員、上原遺跡視察
- 東大阪市文化財協会別所氏、高畑遺跡視察
- 26 愛知学院大教授、船山北古墳群・今宿遺跡指導調査
- 27 大垣市文化財愛護少年団52名、今宿遺跡見学
- 8. 2 大垣市中学校社会科研究会5名、上原遺跡体験研修
- 7 安八郡中学校社会科研究会11名、今宿遺跡・高畑遺跡研修
- 7~9 斐太高校生3名、カクシクレ遺跡にて職場体験学習
- 8 本巣県事務所勝野所長他2名、穂積整理所視察
- 9 第4回「タイムスリップ探検隊」丹生川村カクシクレ遺跡等で実施(参加者183名)
- 10 全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会参加(高知県)
- 18 豊川市教委小島氏、穂積整理所来所
- 22 大垣北小校下文化財愛護少年団22名、上原遺跡体験発掘
- 28 大垣市教委鈴木氏今宿視察、岐阜市歴博士山氏高畑視察
- 29~31 第3回「埋蔵文化財発掘調査基礎講座」開催(7名)
- 31 高山市教委田中氏、本部来所
- 9. 5 名古屋市教委村木氏、牧野小山遺跡視察
- 8 関市教委篠原氏、各務原市教委藤井課長他1名、船山北古墳群視察
- 12 岐阜県博物館大塚・渡辺主事、穂積整理所来訪
- 17 石川県小松市教委望月氏、兵庫県教委森内氏他8名、北小木大谷洞古窯跡視察

- 18 下呂小学校岩田氏、カクシクレ遺跡関連指導調査
- 19 長野県埋蔵文化財センター理事神村氏、牧野小山遺跡視察
- 22 文化庁文化財調査官井上氏、美濃加茂市教委可児氏、牧野小山遺跡視察
- 23 文化庁文化財調査官井上氏、関市教委篠原氏、高畑遺跡視察
- 24 関市教委田中氏、船山北古墳群視察
- 25 垂井町教委鈴木氏、高畑遺跡視察
- 28 三重大八賀教授、高畑遺跡指導調査
新飛騨出張所起工式、国府町にて実施
揖斐川町文化財審議委員5名、揖斐川整理所見学
- 29 徳島文理大石野教授、西尾市教委鈴木氏、今宿遺跡視察
- 10. 2 当センター調査部職員小野木学、兵庫県教育委員会へ派遣
名古屋大渡辺教授、カクシクレ・牛垣内遺跡指導調査
- 3 池田町立八幡小学校6年生89名、高畑遺跡体験発掘
- 5 滋賀県坂田郡文化財研究会高橋氏他6名、堀田城之内視察
- 5~6 全埋文協中部北陸コンピュータ研究会開催(岐阜市)
- 6 藤橋村教育委員・同文化財審議委員7名、上原・寺屋敷視察
- 15 カクシクレ遺跡・牛垣内遺跡現地説明会実施(105名)
- 25 岐阜県教育センター中学社会科講座16名、今宿遺跡研修
- 26~27 全埋文協中部北陸ブロック研修会参加(愛知県)
- 11. 1 「ふるさとと工事の進捗を見る会」上原遺跡見学

■編集後記

今回は、岐阜県町村教育長会会長の平野敬先生に巻頭言をお願いできました。先生には、私どもが埋蔵文化財保護思想の普及の場として行なっているタイムスリップ探検隊について、「個に応じた体験を通して知恵を育てるもの」と意義づけをしていただき、この事業の充実を一層図らねばと心を新たにしております。

前号で、阪神・淡路大震災で被災した兵庫県へ当センター職員が派遣されたことをお知らせしました。復興事業に積極的な協力を申し出ている県の意向を受け、10月2日からは更に小野木学が、今回派遣をした10県の発掘調査員の一人として現地へ赴いております。

